令和元年度　第１回静岡市文化振興審議会議事録

１　日　　時　　令和元年６月 19 日（水）　14 時～16 時 30 分

２　場　　所　　静岡市役所　本館４階　44 会議室

３　出 席 者　　（委　員）
平野会長、川内委員、河村委員、是永委員、佐々木委員、田中委員、
中村委員、森委員
（市当局）
草分参与兼文化振興課長、小山課長補佐兼文化交流係長
仲澤施設管理係長、大和主任主事、八木非常勤嘱託

４　傍 聴 者　　０人

５　会議内容　　１　開　会
２　観光交流文化局　まちは劇場推進監挨拶
３　委員等紹介
４　議題
（１）静岡市文化振興審議会スケジュールについて
（２）静岡市文化振興計画　後期実施計画について
（３）平成 29 年度静岡市文化振興計画
前期実施計画評価総括書について
（４）静岡市文化振興計画　前期実施計画
平成 30 年度実施事業の評価について
５　事務連絡

【議事録】

（平野会長）

審議の開始にあたりまして、本日の審議会は議事録についても一般に公開することとなっており、議事録の作成にあたっては、会長や委員が内容について確認し、署名することとなっています。署名者として二人必要ということですので、私のほかにお一人お願いしたいのですが、今回は田中委員にお願いしたいと思います。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

議題１「令和元年度静岡市文化振興審議会スケジュールについて」事務局より説明をお願いします。

（事務局　小山）

＜昨年度の進捗状況及び今後のスケジュールを説明＞

（平野会長）
それ以降の記事のことで又スケジュールの事で不明な点がありましたらその都度確認をしていきたいと思います。それでは議題の２つ目静岡市文化振興課計画後期実施計画について事務局よりご説明お願いします。

（事務局　小山）
＜静岡市文化振興課計画後期実施計画を説明＞

（平野会長）
皆様一通りざっと目を通していただいたと思いますけれども今の事務局の説明のようにオレンジ色の冊子 14 ページを振り返って常に議論していくことになります。この資料について改めてご意見・質問等ありますでしょうか。

（河村委員）
後期実施計画を立てていく上で上手くいっているものと少し改善を試みたものともしくは新規で追加されたものがマークの表示があれば前に出て進んでいる事業計画だなとよりアピールできると思います。あとわかりやすくなると思います。

（事務局　草分）
新規のものや、改善したことの表示があるとわかりやすいということで、そこは調査の時に確認したいと思っています。評価結果もどのように反映されていくか、その結果も含めて実施計画書に表記されているとよりわかりやすいということで記載の方向を考え、こんな形でどうですかとご相談したいと思います。

（平野会長）
我々が昨年度評価をしていますので、それがどのように反映されるか。いずれどこかの段階ですり合わせしなければいけないですね。ですから少なくとも新規あるいは継続がわかりやすい資料が必要となってくると思います。ありがとうございます。

（中村委員）
ここには載っていませんが、どこかでまちかどに自由に弾けるピアノを設置するというものを見ました。それを楽しみにしている子どもたちや大人がいます。

（事務局　草分）
今回の市長の公約に含まれているもので、３月の調査時には含まれていませんでした。また、

広報されると思いますので、楽しみにお待ちください。

（森委員）

私のダンススクールの中に、イベントでピアノを弾きたいという生徒さんがいたり、静岡の子どもたちがパフォーマンスをする機会を先生としても与えたいと思っているように、市民の一員としてイベントに参加したいという大人や子どもが多いです。いったいどんな人たちがこのプロジェクトに参加できているのか、また参加するにはどうやって手を上げたらよいのかと感じていると思います。参加する人は、いつも同じ団体だったり、参加経験がある団体だったりすると、平等に参加できていないのではと思います。どうすれば参加しやすいのか、もっと参加をわかりやすくすれば、多く人を取り込みやすいのかなと思います。ここでパフォーマンスしているけど、どうやってここに参加できたのか、どういう仕組みになっているのかと思っている人もいるかもしれません。

（事務局　草分）

ひとつひとつの事業がこんな仕組みということはお答えできませんが、広くオープンにしているものはホームページや広報紙などで募集をかけているケースもかなりあると思います。また、それぞれの企画ごとに一定の人に声をかけていることもあろうかと思います。もっと広く広報していれば手をあげることができたのにということになりますので、情報発信ももう少し手段を検討した方がいいかなと今のお話で思いました。情報発信という形でフィードバックさせていただきたいと思っております。

（森委員）

才能のあるお子様さんだったり夢を持った若者だったりいっぱい隠れてると思います。静岡だけでなく日本中・世界中に隠れていて、手を上げにくい人、きっかけを待っている人もいるかもしれません。チャンスは自分で掴めとよく言うのですが、掴ませるために多少は動いてあげるのも甘やかしではないなと私は思っています。静岡でチャンスを見つけられることができればいいなと思っています。こういったイベントがあるので参加しませんかという一報やチラシがあると動きやすいのかなと思います。

（事務局　草分）

私たちの反省点として、広報がどこまで届いているのかということだと思います。ある分野のイベントに対し、その分野に興味や活動している方が全然知らないというのは情報発信力に問題があると思います。私たちも心がけていきたいと思います。

（平野会長）

それでは　静岡市文化振興課計画後期実施計画　についてはご承認いただけるということで次に行きたいと思います。

それでは３つ目の議題　平成 29 年度静岡市文化振興計画　前期実施計画評価総括書についてこれには皆さま大変ご協力いただきましたけれども、これにつきまして事務局より説明お願いします。

（事務局　小山）

＜「平成 29 年度静岡市文化振興課計画前期実施計画評価総括書」について説明＞

（平野会長）

ただいまの事務局の説明に対しご意見ご質問等伺いたいと思います。

これにつきましては、昨年ご活発な意見を頂戴しまして一応まとめてきましたがいかがでしょうか。

評価総括書については昨年度皆様から多様なご意見ご活発な意見をいただきまとめてきましたが、事務局の説明にありました各関係部局、指定管理へのフィードバックというお話がありましたが、どのタイミングでどのように推し量っていくと考えたらよろしいでしょうか。もしこのスケジュール等の中にどのように組み込んでいくのか、このあたりでこうしていくとか、随時こうしていくとか、何かそのあたりのイメージがあればここで共有できれば安心かなと思います。

（事務局　小山）

掲載の事業の中では既に計画している事業もあり、評価総括書の中でこの部分が不足しているというものもありますが、事業予算等もありますので、できる範囲内で少しずつ変えていっていただこうと思います。また、継続の部分については翌年度の評価にもつながりますので注目していけたらなと思っています。

（平野会長）

つまり事業・事業でタイミングが違うので、そのタイミングを推し量りつつ確認をしていっていただくというふうになりますね。

（事務局　草分）

この評価総括書でいいよということになれば、今後、関係部署に送らせていただきます。平成 30 年度の事業について関係部署の評価は終わっているので、今年度の事業に生かせるところは生かしていただきます。その結果として本年度の事業が終わったときにどう生かされたのかを 31 年度の調査票に入れてもらい、どう反映されたかそういう見ていけばサイクルに繋がるかと考えています。

（平野会長）

皆さんが多くの時間かけて議論重ねてきたので、うまく反映し、より良い事業につながって発展的になればいいですね。

ほかにはいかがでしょうか。

（中村委員）

以前、総合評価のＢとかＡがどんな評価基準かどのページでもわかるように記載したらという提案があり、私もそうだと思いましたが、それがわかりにくいです。後にあるＢとかＡの評価理由の中にもありますが、どれくらいだったらＢなのかどれくらいだったらＡなのか範囲が。

（事務局　草分）

ご意見を受けて 30 年度の実施事業評価書に入れたのですが、これを 29 年度のほうにも入れておくようにします。Ｓが 105％以上、Ａが 90％以上のように、指標が１ページ目の下のところ小さな字ですが載っています。それを今後この評価書に載せておくようにします。

事業が複数あり、片方が基準を満たしていて、もう片方が満たされていない場合にどちらを取るか。片方がＢ、もう片方がＡというときに総合評価としてＢになったのかなと思います。文化のためだけの指標ではなく、事務事業の評価ということです。市全体で事業を評価するときの指標をそのまま活用しているので、今のように片方は達成しているが、もう片方は達成していないとなったときどちらを取るか。そのルールに合わせた指標になっていますので、何パーセントの時はＡというように、２つ評価があるときにはどうするかの記載をしておくようにします。そうすれば判断基準として片方は達成でき、今後希望が持てるかなとか、逆のケースもありえます。

また、動員数だけで指標を立てているケースもあれば、イベントや内容によっては満足度のパーセンテージを入れたりしています。

（川内委員）

イベントの中身はよかったけどＰＲはひどかったという場合はどのような評価になるのか。総合的なプロデュースは失敗したとかになりますか。

（事務局　草分）

アンケートの満足度は高かったが人数が少なかったのはなぜか。分析の結果、ＰＲ不足のため人数が少なかったとという場合、ＰＲ不足だったかどうかを測る指標というか、参加者が少なかったからＰＲ不足だったとか、イベントが知られていなかったから人数が少なかったということはなかなか難しいです。指標だったらわかりやすいとか担当部署にフィードバックさせていただきます。

（佐々木委員）

予算全体を引き締めていくには評価を厳しくするが、逆に成長戦略となると違います。よいところをもっと伸ばすのがいいです。そういったところで指標をとらえるなど時代を反映したほうがいいです。

市長選挙の後になるので、次からはその中で出てきた戦略的なものについてはもっと伸ばした

いと考えなくてはならないでしょう。一律にこれまでやってきたような事業評価を毎年コツコツとやるようなことが果たして意味があることか。細かくして意味のない場合もあります。評価のための評価に時間をかけすぎる傾向にあると思います。そうすると創造性を失ってしまいます。我々の業界の定説で今その一番良い例がダイハツです。評価報告書ばかり書いている研究機関がダメです。わかりますか。それが一番ダメなことなのです。だから、例えば４年間の重点目標決めて柱はあり、その柱に沿って、例えばまちは劇場はどこまで進んできたかとか見えるように評価したほうがいいです。それにあわせて美術館がどういう形になったとか、それで市民にここまできましたと示さないと。沢山のスコアをつけて平均点がこうだったとかあまり意味がないと思います。

（川内委員）

私も本当に心配になります。止める部分もスクラップしていく部分も選ばなければいけないのか。本当に必要なもののために止めるということの正確な判断が必要になってくるのではと思います。どこに注目していくのか僕ら市民にもわかる一覧表にしていかないと、全体の人が掴みにくいです。結果がどう文化振興の政策に反映していくのか全体像がつかみにくいのかと思います。

（佐々木委員）

その点で行くと今後の方向性ですよね。ここにポイントがまとまっているわけです。それに全部個別の評価が紐づいているはずです。そこは皆さん確認していただいたように、各担当課のところにこういう結果が出ているので、改善すべきところは改善しましょうという形でその点ではコミュニケーションの集め方はこれでいいと思います。それをここで合意すればいい話ではないでしょうか。あまり個別の事をここで言わなくても。

（事務局　草分）

最初の評価のところの各視点からのご意見につきましても、１つの事業に対してからのものと、創造的人づくりの中での改善点や留意点を重ねていただいています。それぞれの事業がそれぞれの枠に入っていますので、私どもが評価総括書を出すときに、このような視点で事業を見ていただいて照らし合わせてどうだと判断してもらえるような出し方をしていかなければいけないということですね。

（平野会長）

まさに、そこが各局や指定管理等にバトンを渡すときに、きちっと伝わるようにできればなと思います。

（事務局　草分）

それぞれの事業を進めていくというところで、自分のところでそれが言われてるということを認識してもらわなければならないですね。

（田中委員）
　評価をされる側に立ってみると、Ｂが付くとちょっと心配してしまいます。Ａは安心し、Ｓなら胸を張ってという受け止めがあると思います。Ｂも決して悪くはないのです。Ｃが付くと、これはちょっと次年度継続するのかという話になると思いますが。評価される側は胃が痛いです。

（平野会長）
　確かにそうですね。Ｂが付いたところでも、現場がわかっているとそれなりにきちんとやっているケースもいっぱいあります。

（平野会長）
　よろしいでしょうか。では今いただきましたご意見、今後の方向性ですが、各局や指定管理に渡すときに誤解のないようにそのあたりをきちんと説明することによってバトンを渡していき、次年度に生かしてもらう。そして我々も評価に生かしていくといったようにしていければと思います。
　それでは前期の実施計画　評価総括書についてご承認いただけるということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。
　それでは４つ目の議題になりますけれども静岡市文化振興計画　前期実施計画　平成３０年度実施事業の評価について　事務局より説明をお願いします。

（事務局　小山）
　　＜静岡市文化振興計画　前期実施計画　平成 30 年度実施事業の評価について説明＞

（平野会長）
　ただ今の事務局の説明についてご意見ご質問等ありますでしょうか。

（川内委員）
　伝統芸能振興事業とは伝統芸能や芸妓芸能に絞った話になっていますが、これはいわゆる芸妓芸能を指しているのでしょうか。伝統芸能といえば幅広くありそうなのですが、個別に言ってしまえば芸妓芸能振興事業と置き換えて考えればよろしいでしょうか。２ページ目の上のところです。

（平野会長）
　伝統芸能の幅広い中でここを絞っているので、芸妓芸能振興事業に置き換えて考えればよろしいですね。

（河村委員）

こちらの評価も目標値があって、それに対してＳなりＡなりＢなりの３通りとして考えて基本的にはよろしいでしょうか。多分途中速報値があったりすると思うのですが目標値がはいっていない部分もあるように思います。例えば２ページ目の１１２０１の振興事業　来場者数満足度が１、２ではいっているのですが、その評価はＡとなっているということは９０％以上１０５％未満だということになります。

（事務局　草分）

29 年度の評価をしていただく評価書の中には､29 年度の指標とか目標値の入った書式となっていて、30 年度になると目標値が見えないようになってるということですね。同じエクセルの表の中で隠しているようになっているので、今後評価をしていただく中で目標値が見えたほうがいいよということになれば目標値が見える状態で手元に届くようにしてもいいです。

（河村委員）

評価の大前提が目標値と実績値というのであれば、載っていたほうがわかりやすいかなと思います。

（佐々木委員）

文化関連の実質的評価は大事なものが別途それを指摘していないとバランスを欠いてしまう。経済事業であればいいですが、何となく大衆的で動きを抱えるというものもあれば、少し質が高いがやっぱり大事だと思われるものがあったりします。それはそれで続けるということであればというものもあるので、その辺りはバランスでいいと思います。文化芸術基本法ができ、推進計画を作る段階で、文化事業とは本来の文化的価値も大事だが社会的経済的地位も考えなくてはならないということが以前話題になりました。経済的価値というのはその経済的効果を考えたもので、社会的効果はどういったものかと考えたときに社会包摂ということばを使っていますが、これが英語でソーシャルインクルージョン、前に議論したことありますが、それをやさしく言い換えています。それがどのように効果があったかということも見たいわけです。なぜそんなことが大事かというと、今年の４月に、我が国の政府が外国人労働者をオープンしましたよね。それによって外国籍の人たちがおそらく日本の社会に新たに入ってきます。そうした時、いろいろ文化的摩擦が起きますよね。そこで社会包摂ということが大事になってきます。そう考えると文化的事業の役割というのは単にイベントとかで沢山の人が集まっただけではすまないでしょう。それでＥＵの国々の皆さんは悩んでいるわけです。トランプさんは壁を作っちゃえと言っていますが、それはまずいだろうというのがヨーロッパの考え方で、日本の場合もそうです。いわゆる従来の日本の人口だけでは間違えなく人口が減るので、それでは社会が維持できないということです。すでに労働力として新たに外国籍の人を受け入れると決めましたが。そうしたらどんどん増えていきます。その雰囲気の中で、どう受け止めるか。文化摩擦が生じるのは間違いないです。文化政策の中でそれを見越した文化政策をやるかどうかということになるのではないでしょうか。

（平野会長）
　いわゆる文化的・経済的・社会的インパクトをどう受け止めるか、どう取り込むかそこに大きな課題があるわけですね。

（事務局　草分）
　すぐに新しい事業に取り組むということはなかなか難しい中でありますが、様々なテーマが文化振興計画という枠組みでいうとどこに位置づけられるのか、という形でこのような振り分けがされているわけです。今おっしゃったように、今やっている事業でも新たな視点が入ったときこの事業はどう変化していくのかというところも私たちが考えていかなければならないのかなと思います。しかし、自分が取り組んでいるもの以外のところに目を常に配っていられるか、自分自身も社会包摂という言葉を耳にすることがあまりなかったので、例えば全然違う都市計画の部分のまちづくりが、例えば事業が引き継がれていたとして社会包摂を考えた事業にしていきましょうと言ってもなかなかステップが高いなと感じるところもあります。ただ、そういった視点もこの事業・計画の中で考えていくには、そのような視点も持っていなければいけないよという点も発信していくということが必要となってくると思います。評価書とかご意見をいただく中で、そのようなことを取り上げながら担当者にフィードバックしていくことを考えていこうかなと思いました。その辺、私たちも検討しながら市のなかに報告していきたいなと考えます。

（平野会長）
　河村委員のご提案というか、そこに戻して考えるならば、そこは見えるように処理していただくということでお願いします。

（河村委員）
　佐々木先生のおっしゃる通り、イベントを実施すると多くのお客様が来てくれる時とそうではない時とがありますが、来てくれた人たちがいろいろ楽しんで体験して帰ってくれること、学生を巻き込んでいますので、学生とイベントを作り上げるということがすごく大切だったりするように数値にならないものもあります。先ほども話題になった一番下の評価の関係です。なかなか数字以外の関係って入れづらいわけです。評価の目安で 105％以上といったように評価基準が数字で書いてあると、どうしても目標値を探してしまいます。あくまで評価の目安としてこのように数値がある、でもそれだけではないということは、この計画を作っていく中で関係各課の皆さまへの周知などでご尽力いただいていると思います。ですから、105％以上の前に評価の目安という言葉があれば、私もこの中に目標値がある事に必ずしもこだわるわけではないです。

（平野会長）
　いずれにしても表記が小さいです。倍ぐらいにしてもらってもいいですね。

（田中委員）

もともと評価しにくいものとか政策的にやっているものとか、あるいは数値なんてもともと意味がないといったものもありますね。

（川内委員）
今のお話の中でやっぱり社会的影響の部分も含めてＳとかＡとかＢとか具体的に評価しなくてはと思います。言葉でいうと曖昧になるかもしれませんが。

（佐々木委員）
たぶん、事業評価は前回と同様に市で統一されたものですよね。文化事業だけに特化しているわけではないから。

（川内委員）
周知的に示されて話題になっている社会的部分といいますか、非常に抽象的ですが、つながって欲しいです。そういうものが盛り込んだかたちになっていないのでしょうか。

（事務局　草分）
いろんなことを目的とした事業があると思いますが、例えば、何かが幾つできたということが指標に置き換えられていたり、相談事業に何人来たかとう数値が、もしかしたらあくまでも現れとして数値的になっているかというところで。
私達が評価書を作るときにはなるべく客観的に　どうしてもできない場合はどこまで達成できたか、ある程度判断できた表現にしたいと思っており、それが数値に置き換えられています

（是永委員）
別の委員会で、文化をパーセントで評価するものではない、文化は人間の心を育てるのでそれを大事にして評価してほしいと言ったら、行政の方が数字にしてくれないとわからないと言われたことがありました。

（佐々木委員）
今いろんな工夫をしているのは確かです。私の友人がやっている岐阜県の可児市の劇場の評価の場合は、非行の多い高校生がワークショップをしています。そうすると、卒業してから犯罪を犯す非行の割合が減るそうです。つまり、まず犯罪件数が減る。普通に就職できる。そうしたら、地元の雇用にプラスになる。それを数字に表そうとしています。それは社会的インパクトという言葉を使っています。以前はエコノミーインパクトだった言葉です。これはイギリスでやっている手法なのですが、社会的インパクトのある事業に対して会社から投資のお金を出してもらう。インパクト投資という考えが生まれてきます。何かあったらお礼に来ますから。財政当局とやりあうのは、理論を立てないとなかなか予算を守れないのです。
14～15 年前に金沢の 21 世紀美術館の経済効果を測定したことがあるのです。これはあきらか

にエコノミックインパクトでした。そうすると何百億と効果が出るのです。一連と。何百億と投資したら何百億と返ってきた。そうすると市議会で反対派の人も、みんな黙っちゃいます。それは１年限りかって言われましたが、そうではないです。最初の年 158 万だったのが、今は 250 万を超えています。そういう世界です。それはね。こういうのは計算の仕方とかは簡単。どのくらいお客さんが入り、どれだけのお金使っているかアンケート調査をしてとっておく。でも、モデル事業とするなら、そのために最初からちゃんとしたスキミングで調査かけておかなければならない。

例えば、新しい文化施設を作る場合には、それはどういう目的のものかしっかり決め、オープンしたときにどういう効果があるかを最初から準備しておきます。

街中であればお茶飲んで帰られるとか。かなり大きな美術館の場合は、一泊するなど。それは１年間通じてアンケート取っておけばいいです。ゴールデンウイークは人が多く、外国人も来たりします。１年間アンケートの集計をずっと取っておくと、ある程度結果が出ます。そのつもりでやれば出ます。そこをさぼったら出ないです。

いずれにしても、今日話題に繰り返し出てるのは、やはり文化的インパクトそれから経済的インパクトそれからもう一つ社会的インパクトです。ここをどう考えていって事前にきちんと準備をしておくかということです。

（平野会長）

モデル事業を選んで何かやるというのはできるでしょうね。

ただそこをいつまでも手をつけないと進まないわけですよ。同じ議論を繰り返さなければならないことになるのでこのあたりをどう踏み込んでいくか。新しい施設を作る場合ももちろんそうですけど、文化会館の課題でありあるいは今度出来る歴史博物館の課題であり、それをどう当てはめていくか皆さんのおかげで今日も大きな課題が見えてきましたね。

（田中委員）

新しい施設だったら自動カウンターです。静岡市美術館だと出口２か所ありますから、両方でカウントし、入った人は確実に出るのだからと数字を２で割っています。金沢は４か所あります。４倍して２で割っているのか、どんな計算をしているのかどうか。

（佐々木委員）

金沢の場合は有料ゾーンと無料ゾーンの２か所あって実に巧みに導線が作ってあるのです。無料ゾーンそこだけで何か食べても、それはアンケートで確認する。そうすれば、入場料を払わなくても周りで本を買ったとか、工芸品を買ったとか、お茶をしたとか、それ全体がエコノミーインパクトです。そんなに面倒なことではないです。社会的インパクトはもう一歩突っ込まないと。

（田中委員）

今の話でいけば市美はまさにすべて無料ゾーンに入りますからね。

（平野会長）
　有料の場合は簡単に計算できますから。静岡市美術館は、結構あの周りを大事にされています。
　今の施設はオープンゾーンというか、そこを利用しないで通り過ぎたり、たむろする人たちをどう上手く自然に引き込むか考えていますね。

（佐々木委員）
　私はもともと市長からマスタープランを頼まれたのですが、その事業の前に金沢市民芸術村を作りました。その時、まさにダンスだとか演劇だとかの関係者が夜中も使いたいという声があり、だから金沢の市民芸術村は 24 時間市民が使える芸術センターになったわけです。それが今でも続いているのですよね。年間９０何パーセントかの利用率です。
　それで、そういう要素を美術館に持ち込めないかと提案しました。現代アートを鑑賞する人だけではなく、他の目的で来る人もいる。夕方５時で閉まってしまう美術館では絶対ダメだと。週末は夜 0 時までやれと、そういうことにしたんです。
　それで変わっていったのですが、大変ですよね。週末 10 時までというのは。

（平野会長）
　スタッフも大変ですね。

（佐々木委員）
　実はね、ニューヨーク、ロンドンに新しい美術館ができたのですが、最初の大きなイベントが成功して、48 時間か 36 時間連続で開いたらしいです。そういうことがあると人々の目というものが変わります。美術館をマネージメントするにも色んなアイデアがありますね。

（平野会長）
　そういったところ、今の美術館に限らずいいですね。今、静岡市でも上映が始まったニューヨーク公共図書館という映画ですが、こういうところをすごくスタッフが議論していて、とてもいい映画でした。今週いっぱいやってますので是非。大変素晴らしいです。

（川内委員）
　予告編だけ見て良さそうだと思いました。

（平野会長）
　図書館が置き去りになる可能性がありますけれど。

（田中委員）
　全国で公立図書館がない自治体が十幾つあるのです。驚きました。大阪など、結構大きな市に

もないです。色々経緯はあるとは思いますが。

（佐々木委員）
　ただ、今、図書館は難しいですね。私立の図書館があるからそれが市民に有効に使われているから悩ましいのだと思います。図書館の立地とか、他にもいろんな要素の図書館があってもいいのではないでしょうか。一律ではありませんから。静岡市の図書館なんかは考え深いでしょうね。

　他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
　この件についてはご承認いただけたということでよろしいでしょうか。
　それでは、本日の議題はすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。いったん事務局のほうにお渡ししたいと思います。

（事務局　草分）
　皆様ありがとうございました。今回の事で何かお気づきの点がありましたら事務局へご連絡いただければと思います。
　最後になりますが、冒頭あいさつのところでお伝えしましたように、今年度、市民文化会館の再整備に向けた検討がスタートします。まずは改修をしていくのか建替えをしていくのか、市民の皆さんの意見を交えながら検討していきたいと思っています。
　もともとはアリーナと文化会館を一緒に作ろうという話からスタートしまして、それがアリーナとは分けて考えることになりました。その中でも、ただ単に改修とか建て替えとかではなくて、これから文化会館にどんな機能を持たせていくのか、まちづくりの中でどんな役割を持って、どんな文化会館になっていけばいいのかを検討しながら、また、興行していくにはどのくらいの広さや機能が必要なのかなど併せて色々な調査をしてまいります。それにあたっては皆様に色々なご意見をいただきたいと思いますので、今年度の審議会におきまして、また検討状況のご報告をさせていただくとともに、２回目の時に少しお話していただけるよう何かご提示させていただきたいと思っております。また会長とお話を詰めさせていただき、いろいろなご意見を伺えたらと思っています。したがいまして、今年度は少しボリュームあるお願いをすることとなりますがよろしくお願いいたします。
　引き続きまして２回目ですが、今予定としては９月 24 日もしくは 26 日を予定として考えております。お手元のほうに日程調整表を配らせていただいておりますので、もし今日この場で分かればご都合の良い日をご記入いただきご提出いただければと思います。日程が決まり次第、皆様にご連絡させていただきたいと思います。今日は都合がわからないというのであれば、6 月 25 日までにお知らせいただけますようよろしくお願いいたします。
　それでは以上を持ちまして令和元年度第１回静岡市文化振興審議会を終了させていただきます。本日は大変お忙しいところありがとうございました。